

◎御講演 「最近の朝鮮半島情勢」

外務省 アジア大洋州局 北東アジア課長 金井 正彰 氏

【大使の手紙】「皆様、キプロスにご注目を」

在ギリシャ兼キプロス特命全権大使 西林 万寿夫 氏

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



日本外交協会報

The Society for Promotion of Japanese Diplomacy

発行:(一社)日本外交協会 URL <http://www.spjd.or.jp>

平成29年 7月20日号

「最近の朝鮮半島情勢」

外務省 アジア大洋州局

北東アジア課長 金井 正彰 氏

(平成29年6月19日 於日本記者クラブ)



現在の北朝鮮情勢、韓国情勢を説明し、日本政府の取り組みなどについてもお話ししたいと思います。

北朝鮮のミサイル発射技術は非常に進歩

【北朝鮮による挑発行動】<資料②>は今年に入ってから北朝鮮の挑発行動をまとめたものです。北朝鮮の挑発が非常に激しくなったのは昨年1月6日の核実験以降です。核実験はこれまで3-4年に1回の頻度でしたが、昨年だけで2回行っています。また弾道ミサイルの発射も、昨年だけで20発以上、今年を含めると通算30発を超えています。

2月13日には金正男という金正恩第一書記の異母兄が殺害されました。核実験、ミサイル発射に加え、こういった殺害事案も起こり、北朝鮮に対して国際社会が非常に懸念を強めました。3月6日に弾道ミサイルを4発発射しましたが、うち3発が日本の排他的経済水域(EEZ)に着弾しました。正確に狙った場所に落とす形跡があり、北朝鮮のミサイル発射技術が非常に進歩していることがうかがい知れます。3日後に彼らは声明で、これが在日米軍基地への攻撃訓練だったと発表しました。在日米軍基地を狙おうと思えば、攻撃する能力があるのだとわざわざ宣伝した、そういうミサイル発射でした。

その後も月に数回、ミサイル発射を繰り返してい

核実験も回を重ね、現在彼らは10キロトン以上の非常に大きな核爆発能力を保持していると思われています。弾道ミサイルに核弾頭を装着する能力を持っているかどうかについては定かではありません。核弾頭装着には二つの技術的課題があると言われていいます。一つは核弾頭の小型化・軽量化。もう一つは大気圏再突入技術、即ち、大気圏再突入時の空気抵抗で発生する熱に弾頭が耐えられるかという問題です。今、北朝鮮が核弾頭能力を達成していると断言できる関係者は少ないのですが、そう遠くない将来その能力を持ってもおかしくないというのが専門家の見方だと思います。

【北朝鮮をめぐる各国との最近のやり取り】あえて単純化して申し上げれば、北朝鮮には今こそ圧力をかけるべきだと思っているのが、日本、アメリカと韓国。日米韓はこれまでは歩調が合っており、圧力をかけたうえで北に非核化を迫るアプローチでした。対する中国、ロシアは圧力をかけると暴発するので、対話こそがあるべき道だという立場です。なお、韓国は朴槿恵政権から文在寅政権に替わり、今までのような圧力一辺倒でなく、対話も進めたほうが良いという意見が目立ってきています。

北朝鮮の貿易の90%は中国との取引

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。

ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。